

思いや“生きる”が行き交う十字路口。「ライフクロッシング」の名に込めました



前「乱れ打ちかわら版」/季刊(創刊2001年)

2022年冬・71号

信条・世に媚びず・粋にとらわれず  
・言いたいことはハッキリ言おう

発行/吉田 進

携帯 090-3168-1063

FAX 072-863-0605

〒110-0015

東京都台東区東上野3-26-10 FC204号

URL: <http://lifecrossing.ne.jp/>

E-mail: [info@lifecrossing.ne.jp](mailto:info@lifecrossing.ne.jp)



ロシア軍の攻撃で破壊されたオフィスビルと住宅地。ウクライナ第2の都市ハルキウで撮影。同市はロシア国境と近く、親ロシアの住民が多い街だったが、一般市民の住宅や学校や病院なども無差別に攻撃が行われている。プーチン大統領はウクライナへの侵攻を決断した理由の1つとして、「ウクライナ政府によるロシア系住民の迫害」をあげたが、そのロシア系住民を含めハルキウの人々を苦しめているのはプーチン大統領自身だ(志葉玲氏撮影)

## CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・自分のことを書いています。

### 憲法と改悪を考えるシリーズ⑰

2つの憲法の価値観 法政大学名誉教授 田中 優子…2

### 台湾問題への提言

戦争という愚かな選択をしないために

新外交イニシアティブ(ND)代表 猿田 佐世…3

ウクライナ侵攻で考えた 軍備増強か警戒しつつ平和外交か

東京 三田 栄考…4

### 長期政権は墮落する

明るみに出た自民党と旧統一教会との癒着

吉田 進…5

量子力学と文明：核エネルギー問題の核心に迫る

北里環境科学センター名誉顧問 伊藤 俊洋…6/7

### 社会主義・共産主義は完全に破れたり

それでは資本主義の矛盾をどう解決する

大阪 馬場 正雄…8

### ルーマニア移住日記

オルゴール演奏、共に歌う

隣国ウクライナの避難者たち アルプ京子…9

自民党政治の象徴「ガソリン税」……………10

### 元秘書が語る政治の世界

森ゆうこ前参議院議員から学んだこと

新潟県三条市議会議員 竹山 よしかず…11

恭子の日記⑳ はじめの一步

中田 恭子…12

中学生の夏休みの宿題は父が働く職場の見学だった。

娘が父の営業に同行した一日……………13

武士政権の確立 鎌倉幕府の光と影(下) 東京 阿部 敏夫…14

水商売

野口 文子…15

志葉玲氏 ウクライナ取材が本に……………15

余録/編集後記……………15

凋落する日本を憂う 新潟県前参議院議員 森 ゆうこ…16

憲法と改憲を考えるシリーズ17

# 2つの憲法の価値観

法政大学名誉教授 田中 優子

自民党憲法草案は個人主義を排する露骨な国家主義憲法です。こんな草案を世に出す感覚すら奇異に感じました。それを許す国民の甘さも残念です。筆者が指摘するように国民が抵抗・反撃しなければ自民党はこの感覚で突っ走ってしまうのでしょうか。

憲法とはその時代に理想としている社会像を表現しているものです。現行憲法には、「個人」「人権」「普遍的価値」の3つの言葉が頻繁に出てきます。「普遍的価値」は、世界的、地球的価値を指しており、日本のことだけを言っているわけではありません。これはきわめて稀な憲法です。現実的ではないという声も聞こえてきます。しかし、憲法を現実にならざるままに、私たちが的中から理想とする世界観がなくなってしまう。現実には法律なのであって憲法ではない。憲法とは、あくまで目指すべき理想像なのです。ですから何か事が起こった時、いつでも理想と照らし合わせる事ができます。この意味で憲法はとても大事な土台なのです。

一方、自民党が2012年に公開した憲法改正草案からは、自民党が描く社会像が浮かび上がってきます。「天皇を元首として国民の上に戴く」という文言。国民が「個人」ではなく単なる「人」であるという言葉。国としての単位は「家族」であるという考え。こういった内容が書かれています。普遍的どころではなく、日本国のみ視野です。ここが現行憲法とは大きく異なっている点です。そして「国家を末永く子孫に継承するため、ここにこの憲法を制定する」と、家族と子孫、血縁関係の社会像です。

9条は前半部分の「国際紛争を解決する手段として、永久にこれを放棄する」は、ほぼ現行憲法と同じなのですが、「永久にこれを放棄する」を削除しています。そして第2項に「前項の規定は自衛権の発動を妨げるものではない」として自衛権を認めます。さらに9条の2として「国防軍を保持する」が付け加えられており、この国防軍に関する条文が5項にわたって詳しく書かれています。改憲によって軍隊を作る意図が明確です。



9月27日安倍元首相国葬反対国会前集会でスピーチする田中優子前法政大学総長

そして13条です。現行憲法では「すべて国民は、個人として尊重される」「生命、自由、及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする」と謳われているのに対して、自民党憲法改正草案では「個人」「人」に代えており、「動物ではないところの人」と言っているにすぎません。そして、皆の幸せという意味の「公共の福祉」が「公益及び公の秩序」に置き換えられています。公益とは国の利益、公の秩序とは国の秩序です。個人より国の利益と秩序を重んじる憲法です。現行憲法が大切にしている基本的人権は天賦のもので、あらゆる個人に与えられている永久の権利で、現行憲法の一つの特徴です。第11条「国民は、すべての基本的人権の享有を妨げられない。この憲法が国民に保障する基本的人権は侵すことのできない永久の権利として、現在及び将来の国民に与えられる」と現行憲法案は述べます。天賦人権説とは、人は生まれながら自由、平等であって、幸福を追求する権利と基本的人権を国家以前の権利として有するという説です。明治初期に加藤弘之、植木枝盛ら啓蒙思想家や自由民権思想家が立憲制の導入を主張するにあたって、その理論的基礎にしました。自民党は、これを西欧の天賦人権説として否定していますが、明治の日本人によって尊重された言葉です。

人権が国家に先立って個人に与えられているのだとすると、国はこれを侵してはならない。守り続けるのが国の役割です。あるいは国民の役割、国会の役割、政治家の役割になるわけです。

現行憲法第24条「婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により維持されなければならない。」「ここで「のみ」というのがとても大事な言葉なのです。ところが自民党憲法改正草案では、「のみ」がいつの間にか消えています。そしてその前に新しい文言を入れた。「家族は社会の自然かつ基礎的な単位として、尊重される。家族は、互いに助け合わなければならない」という一文です。これは統一教会の関連団体である「勝共連合」がそのホームページで示しているものと全く同じ文言です。そして「のみ」を削除した婚姻は、当事者以外の力によって婚姻が成立する可能性を示唆しています。統一家庭連合の価値観と一致します。自民党は4項目の改憲案を提案するつもりです。しかしその背後には自民党憲法改正草案全体がひかえています。これが党であり党が決定したもので、そこは譲れないと自民党の方たちは考えています。ですから、改憲を続けていくこととしよう。そのことを念頭において改憲4項目に向き合わねばなりません。

【田中優子氏プロフィール】1952年、横浜市生まれ。法政大学大学院博士課程（日本文学専攻）修了。法政大学社会学部教授、学部長、法政大学総長を歴任。専門は日本近世文化・アジア比較文化。「江戸の想像力」（ちくま文庫）で芸術選奨文部大臣新人賞、「江戸百夢」（朝日新聞社、ちくま文庫）で芸術選奨文部科学大臣賞、サントリー学芸賞受賞。2005年、紫綬褒章受賞。朝日新聞書評委員、毎日新聞書評委員などを歴任。「サンデーモーニング」（TBS）のコメンテーターなども務める。江戸時代の価値観、視点、持続可能社会のシステムから、現代の問題に言及することも多い。

# 戦争という愚かな

## 選択をしないために

新外交イニシアティブ(NDI)代表 猿田 佐世



ND 猿田代表

「台湾防衛に日本もアメリカと共に参加すべき」などの威勢いい意見が飛び交い、政府は防衛予算の大幅増額、敵基地攻撃能力の容認などを年内にも決定する方向である。しかし、「台湾防衛への参加」は、即ち「中国と戦争をすること」である。そう

なれば、日本へも甚大な被害が予想されるが、私たちにその覚悟はあるのか。私が代表を努める新外交イニシアティブ(NDI)では「台湾問題に関する提言―戦争という愚かな選択をしないために―」を発表している。下記、要旨を紹介する。

■ 甚大な人的・物的被害を無視し、戦争終結後の平和と秩序の展望を抜きにした「勇ましい議論」が世論に影響を与えすぎている。そもそも「何としても台湾有事(米中戦争)は避けなければならぬ」ということ

が、今の日本の至上命題である。

■ 日本の軍事力拡大を求める人々の中にも「戦争は絶対に避けなければならぬ」と言う人はいる。「だからこそ、対中抑止力を高めるために軍事力強化だ」という論理である。しかし、現在、加速度的に両陣営の軍事力が増強され、相手に誇示している現状では、いつ偶発的な、あるいは錯誤に基づいた衝突が起きないとも限らない。米英の軍艦が台湾海峡を通り、対中を念頭に置く「クワッド(日米豪印)」の軍事演習も毎年開催されるようになった。中国側は、大量の軍用機を台湾の防空識別圏(AIDZ)に飛行させている。このような状態で誤算による衝突がないなどということを言い切れる人はいない。他方、既に軍拡競争となっており、軍拡に頼っても限らない競争になるだけである。

■ 「中国」と「台湾」という二つの共存がcausing(保たれ

てきたのは、米中が「一つの中国」という極めてデリケートな認識によって兩岸の安定を図ろうとしてきたためである。近年、米国は台湾に閣僚級の政府高官を派遣するなど、「一つの中国」の姿勢を事実上転換しようとしているかのような動きに出ている。日本は、「中国の立場を理解・尊重する」という1972年日中共同声明の立場を堅持し、米中双方に自制を求める必要がある。

■ 単に軍事力を強くすることだけでは他国からの攻撃は阻止できない。米ソ冷戦時には、レッドラインを明確にし、それを越えなければ攻撃しないと「信頼関係」があった。今の米中対立でも、中国が「武力を使わなくても核心的利益が脅かされない」と考えられれば、競争にはならない。当面の衝突回避には、「一つの中国」と「台湾独立の不支持」を再確認して、中国に「安心供与」することが重要である。また、中国を追い込んで、選択肢が武力行使のみになるような状況を作らないよう、関係国が慎重に行動することも必要である。

■ 現在米国は、米国に対する脅威となる中国本土のミサイル施設を破壊する中距離弾道ミサイルを開発しており、日本を含む第一列島線上への配備を目指している。しかし、そうならば日本列島を舞台にした中距離弾道ミサイルの軍拡競争になり、偶発的事故の危険性はさらに高まる。日本の持つ抑止力は専守防衛的なものに限定すべきであり、中国本土のミサイル施設を無力化するような専制的・懲罰的な要素を入れるべきではない。日本への弾道ミサイルの配備や敵基地攻撃能力の保有は絶対にやめるべきである。政治的誤算を避けるための対話と、錯誤による衝突を防ぐための危機管理の仕組みを作ること

も必要である。

■ 米国に倣って、台湾と日本政府との関係を強化すべきという声も聞こえるが、従来の台湾との政治的関係を変更するような行動をとることは、安心供与に逆行する。

■ 米中対立は、「専制主義対民主主義の競争」とされているが、それでは敵味方に世界を分断しゼロサムの対立となる。コロナや気候変動といった世界課題に対する国際協力こそが優先

課題である。中国にも米国にも、身勝手な主張を繰り返すことは避けるよう、息長く説得する努力が必要である。

以上である。何よりも「台湾防衛への参加」中国との戦争」。この理解をせむ皆で共有したい。

■ 米中対立は、「専制主義対民主主義の競争」とされているが、それでは敵味方に世界を分断しゼロサムの対立となる。コロナや気候変動といった世界課題に対する国際協力こそが優先

■ 米中対立は、「専制主義対民主主義の競争」とされているが、それでは敵味方に世界を分断しゼロサムの対立となる。コロナや気候変動といった世界課題に対する国際協力こそが優先

■ 米中対立は、「専制主義対民主主義の競争」とされているが、それでは敵味方に世界を分断しゼロサムの対立となる。コロナや気候変動といった世界課題に対する国際協力こそが優先

【猿田佐世氏プロフィール】  
 新外交イニシアティブ(NDI)代表・弁護士(日本・ニューヨーク州)。大学時代からアムネスティ・インターナショナル等の国際人権団体で活動。ワシントン在住を経て、日米関係が特定の限られた人の手にのみ動かされていることを実感し、NDIを設立。基地問題、原発、安保・防衛などの各外交・政治分野において、米議会などで政策提言活動を行う他、沖縄の人々や国会議員らの訪米活動をサポートする。著書に「新しい日米外交を切り拓く(集英社)」、最新の編著に「米中の狭間を生き抜く(かもがわ出版)」。

NDIは、世界に届くつなぐ声を国境を越えて伝え、情報を相互に流通させ、政策提言を行います。

URL: <https://www.ndi-initiative.org/admission/>

# ウクライナ侵攻で考えた

## 軍備増強か

## 警戒しつつ平和外交か

東京 三田 栄考

本誌70号にゼレンスキー大統領が他の方法を取れなかったかと私が疑問を投げたら多くの反論をいただいた。批判の多くの方は愛国心の正義の刃を振りかざし断固ブーチンと闘うべしとの正論でした。私は愛国心は国の災いの元、国を亡ぼすと思っています。だから「愛世界心」を唱えます。ロシアの侵攻で日本人の愛国心を掻き立てている危険を危惧しています。ゼレンスキーが権力で押し留めなければ、私なら愛国心を捨ててスタコラと国外に脱出します。だって命は一つ、命あつてのものだね、そして、捲土重来を期しただろう。

兵器が進んでない関ヶ原決戦では東西20万余の軍勢が闘っても6千〜8千人の死者しか出なかった。現代はミサイルでビルは倒壊し核爆弾で

何万人も死ぬ。いや、間違つて東西の核大国が全面戦争となれば地球と人類は滅ぶ。第二次世界大戦前と現代とは戦争というものに対する心構



ブチャではロシア軍に殺された人々の遺体があちこちで見られていた。(志葉玲氏撮影)

えは全く変えなくてははいけない。世界の趨勢はそれを認識してきたから77年間3発目の核は使われることなく今日に至っている。しかし、軍備力の背景に頼るとミス判断による偶発核戦争の可能性がある。であるなら、永久に核フランスが続くわけではない。

永久であるならいざれ誤謬による核戦争が起こるといふことだ。核戦争は数時間で決着してしまう。

ウクライナ侵攻を受けて借金大国の上にコロナ禍で税金が更に枯渇しているのに、軍事費の倍増を叫ぶ者への有効な反論が少ない。軍備増強派から平和外交の視点や努力が聞こえて来ない。彼らは戦争が起こることを前提に軍拡を唱えているのではないか。私は戦争を起こさせないことを前提にその補完として軍備を論じるべきだと思う。戦争が起こったら、こちらが反撃する羽目になったら政治家・政府はおしまい、失格との心がけでなければいけない。私は抑止力を認めないわけではないが、核戦争は絶対起こしてはいけない、米中ロが本気で闘うのは絶対避けさせねばならない。抑止力論者は核戦争、敵基地攻撃も止む無しとの主張だろう。飛来したミサイルを全部落とせないとはいえが分かっていて、敵基地を叩いたら全部破壊できないのも分かっていて。残った敵は全兵力で日本を攻撃して日本は滅ぶのが何故分からないのか

な。昭和の時代ならいざ知らず軍事力では日本を守れない。幸い世界の世論は、国連は冷静だ。NPT核拡散防止



ポロディアンカで (志葉玲氏撮影)

条約の決議にロシアアカ国だけが反対したが同国を追放しないで今後も説得の努力を続ける。そうです悪魔の国であつても地上から抹殺できないから。核廃棄は遅れるほど難しい、日本まで核を持つと廃絶は不可能になる。次善、三善の策を講じましょう。

英国は国葬に北朝鮮を招いている。日本は拉致事件解決と口では言うが交渉すらできない。排除と軍事力だけでは戦争に突入してしまう。国連の力が弱くても人類は国連に代わる組織を持たないから国連を強化、改革するしかない。台湾に危機だと騒ぐことが台湾危機です。お互いが相

手の挑発などと危険を招くようなことをしなければ台湾進攻は起こらない。台湾海峡を越えてまでの無理な進攻はしつぱ返しに会うことが分かるからだ。その為には大国間の連絡手段が必要だ。いかに敵対しても話し合いのパイプは必要だ。戦争の危機が存在するならば外交の努力を軍備増大よりも何倍も尽くした方が有効で安上がりだ。安倍晋三氏がブーチンと27回も会って親密さを語るならモスクワへ説得に行くべきだった。彼は平和よりも軍備を戦争を望んでいたのではないか。そして軍備で平和を維持している限りは恒久平和も核廃棄もできない。国家、国境がある限り紛争はなくなる。私は何故もつと世界連邦への道を人類が模索しないのか不思議に思う。戦争をなくし、核廃棄できるのは究極には世界連邦の建設という大きな目標に向かわない限りは叶わないのではないか？ 世界連邦は夢机上の空論との意見も尤もです。困難は千も承知ですが、国家がある限り国家間の利害が対立し戦争の種は絶えない。

## 長期政権は墮落する

# 明るみに出た自民党と旧統一教会との癒着

吉田 進

風の日は風吹きすさぶ  
秋刀魚の値(波瀾)

戦後から77年。こんな悪夢の世になるなんて、誰も予想せんかった。終りなきコロナ禍とロシア軍の「核使用辞さず」のウクライナ侵攻。そして、ドル高円安、物価高の天井が見えず、今や国民はぐったり。

「物高く、人痩せる秋」は、やっぱり秋刀魚で元氣出さんと。しかし銀色に光る秋刀魚は、今や高値の高級魚。戦前、七輪の炭火で焼き、ジュウと醤油をかけて食った秋刀魚の味はたまらんと昔と今を比べてた。

自民党そのヤミ深く民嘆く

安倍元首相の国葬をめぐる世論の「反対」が高まる中で、「臭いものに蓋」の蓋が開き、自民党と悪徳・霊感商法の旧統一教会との長年の癒着構造が明るみに出た。自民党との関係は長くて深い。また「同協会の文鮮明・創始者はかつて、北朝鮮に5000億円を寄附。その金の3分の2は日本で集めたもの」と週刊誌は書く。

同教会との接点追及を「忘れた」「覚えてない」と避けてきた山際担当相は、遂に逃げ切れず辞任した一方、その古くて長

「秋刀魚焼く煙の中の妻を見に」(誓子)だが、今は「政治けむたためは民の竈かな」。

幽霊のお足つけた秋の風

安倍前首相は7月8日、参院選での応援演説中、凶弾に倒れ

## 月とスッポンは何を語るのか？



「人は死んだら名を残す」というが、月は永遠に平和の象徴として、人々を優しく照らす。一方、スッポンは人々に噛みつくが、結局人々に食われる運命である。写真は月のゴルバチョフ(元ソ連大統領=左)、すっぽんのプーチン(ロシア大統領=右) 2004年12月21日(毎日新聞より)

て死去。

その犯人は旧統一教会の信者家族で、母親が1億余の金を取られ、一家は離散。家族の一人が同教会へ返金より母親の脱会を求めたが、それも叶わず、教会への憎悪が安倍氏へ向かったもの。

で、岸田内閣は断で故安倍氏の国葬を實行その世論無視の国

義国の民主化にソ連離脱に軍事介入せず、共産党独裁システムを否定。

米国と中距離核戦力全廃条約を結ぶなどで、冷戦状態を平和的に解決し、90年にノーベル平和賞を受けた偉大な人物だった。

そして親日家で、再三来日し、長崎、広島の前爆被災地では犠牲者の冥福を祈り、一方、資料館では「私たちは犠牲者の

会での追及から統一教会と政治の癒着(選挙・資金応援)が芋づる式に出てきた。その黒い糸は、かつての岸信介元首相から細田衆院議長、諸大臣に及び、末端の議員へと広がっている。

自民党への不支持が増え、しぶしぶ野党の追及に応じた自民党政権は、霊感商法被害者の救済法案を先行しているが、野党は統一教会と癒着する自民党議員の追及も同時にやってもらいたい。国民が本気で怒れば政治は変わる。「無関心は人を殺す」(グルタ・メイアイスラエル女性首相)のだから。

ことを決して忘れてはなりません」と書いた。また、北方領土についても、「日ソ平和条約」と共に早期返還を語っている。とにかく、彼とプーチンは月とスッポン。だが、ゴルバチョフ氏は国内では少数派。だからなお、彼の死を悼み、深々と頭を垂れて感謝したい。そして、プーチンの無法残虐なウクライナ侵攻に反対し、それを感謝の証にしたいと思う。

最後に、「政治が悪い」は国民が悪い。日本は「政権を担う野党が無きぞ悲し」で、二大政党制の確立を願って止まない。

## 核エネルギー問題の核心に迫る

北里環境科学センター名誉顧問 伊藤 俊洋

## はじめに

今、地球上では80億人弱の人類が犇めき合って生活している。この人類が、インターネットで繋がりが、地球上で、何時、何処で、何が起こっているか瞬時にわかるようになってきている。人類の行き過ぎた経済活動の影響で、地球環境が大きく左右されることも科学的に証明され、人類全体としてのエネルギーの使い方何らかの制御をすることが喫緊の課題となっている。SDGsなど、既に幾つかの国際的な取り組みも進んでいる。

一方、生命現象を地球規模で考えるとき、全ての生物が地球環境から生まれ、死ぬと地球環境に還ってゆくという、いわゆる「生命の循環」という概念も一般に受け入れられてきている。全ての生命は、地球環境で繋がっていて、換言すれば、地球上の生命現象は、時空を超えた高次元巨大環境生命体（宇宙船地球号）と考えることができる。

この概念は、基本的に原子論で支えられており、物事の本質を知ろうとするならば、原子論を理解しなければならぬ。

## 原子論の歴史

およそ2300年前、古代ギリシャ時代にデモクリトスは、「物質を極限まで壊してゆくと、最後にはそれ以上壊すことも作ることできない究極の粒子（原子）になる。全ての物質は、多種類の原子が結合して出来ている。」という原子仮説を提唱した。この仮説は、現在の原子論と本質的に同じであり、当時としては極めて先見性のある考え方であったが、社会からは認められなかった。1800年代になって、ドルトンにより、この原子仮説が正しいものとして、実験科学的に証明され、その時をもって、近代科学が誕生したとされている。しかし、原子と原子が結合して分子を形成すると言っ

ても、どのようにして結合するのだろうか、そのメカニズムは不明であった。

## 近代原子論・量子力学の誕生

近代原子論の中で、最も重要な部分を占めているのが、量子力学である。量子力学は、およそ100年前、人類が第一次世界大戦（1914〜18年）中に、いわゆるスペイン風邪のパンデミックに襲われ、社会が負の連鎖に落ち込み、人類の精神構造が極度に落ち込んでいた時に、多くの若き天才たちが田舎に疎開して、物事の本質を、考えて、考えて、考え抜いて辿り着いた、それまでの科学とは全くかけ離れた新しい概念である。それまでの科学とは、1600年代にヨーロッパを襲ったペスト（黒死病）によるパンデミックで社会が落ち込んでいたときに、1人の天才物理学者のアイザック・ニュートンが、田舎に避難して、深く思索を重ね、編み出した物理学である。ニュートン物理学は、日常生活の中で我々の目に見える世界の物理学である。量子力学は、目に見えない極微の世界、つまり原子を構

成する原子核と電子雲の世界である。この極微の世界を切り開いた3名の物理学者、エルニー・シュレーディンガー（波動方程式）、ウエルナー・ハイゼンベルグ（行列力学）、リチャード・ファインマン（経路積分）は、それぞれが得意とする数学を使って、極微の世界を可視化して見せてくれた。高度な数学を使った理論の結果が、三者三様のプロセスを経て、全て見事に一致したことで、量子力学が信頼に値する理論であると認められた（図1）。アインシュタインは、どちらかというとニュートン力学の世界で思考を深めており、量子力学には懐疑的であったという。ファインマンは、この難解な量子力学を、一般の人たちにも分かるようにと易しい説



図1 量子力学の誕生  
ソルベー国際物理学会議に集った物理・化学者達  
1927年 ベルギー B.クーブリ撮影  
<http://doi.org/10.3932/ethz-a-000046848>

み物を書いた（「光と物質の不思議な理論―私の量子電磁力学」R. P. ファインマン著、釜江常好、大貫昌子訳、岩波現代文庫、2007年）。記者が、「この本は一般の人たちに理解できるのか」と聞くと、ファインマンは、「UCLAの物理学を専攻する優秀な新入生でも理解できないだろう」と答えた。それでは、何故このようなものを書いたのか聞かれたファインマンは、「完全に理解できなくても、おおよその概念、量子力学がどのような世界を扱っているのかという感触を味わってもらおうことが大切である。全くわからないのとは、少しでもわかっているのとは、雲泥の差であって、その差で思考の展開が全く違う。最初から諦めの境地で、対象に対して近づくことも考えることも拒否してしまつては、新しい思考は生まれぬ。最も大切な姿勢は、難解な世界に少しでも近づこうとするモチベーションである。物事を全て完全に理解する必要はなく、可能な範囲で、大局的な視点で、ほんやりとでも輪郭を把握する手法を身につけることが大切である。そのため

る。」と答えている。人類が自然の中に、新しい現象を発見した時、新しい理論が生まれてくる。ファインマンは、自己に対して極めて正直で、彼自身が完全に量子力学を理解しているわけではない、と言い切っている。ここで、ファインマンが言わんとしていることは、ファインマンが自然現象を全て知っているのではなく、これから生まれてくる人類にとって、自然界は謎に満ち溢れたワクワクする世界であるということ

を言いたかったのだろうと私は思う。

しかし、ファインマンの意図とは逆に、この言動が一人歩きして、ファインマン自身が理解できない量子力学を一般の人間に理解できるはずがないと結論され、量子力学は凡人には近づきがたい禁断の世界に追いやられてしまっている。ファインマンの本心は、社会の指導的立場にある科学者、教育者、哲学者、宗教家、政治家、経済人などに、せめて量子力学の輪郭でも理解してもらい、文明を正しい方向へ導いて欲しいという願いではなかったかと思う。今、私は、ファインマンが成し遂げられなかったこと

を、私のできる範囲でフォローしようと思っている。

### 近代原子論に基づいた化学反応の捉え方

原子は大きく分けて2つの構成部分からできている。その1つは、原子の中心部に位置している原子核で、もう1つは原子核の周辺を覆っている電子雲である。電子雲の中心は電子で、電子は常に高速で動き回っている。あたかも雲のように見えると想定してこのように呼ばれている。

原子核は2種類の素粒子(陽子と中性子)からなり、両者の質量はほぼ同じだが、陽子がプラスの電荷を持つのにに対し、中性子は電荷を持たない。一方、電子の質量は陽子に比べておよそ2000分の

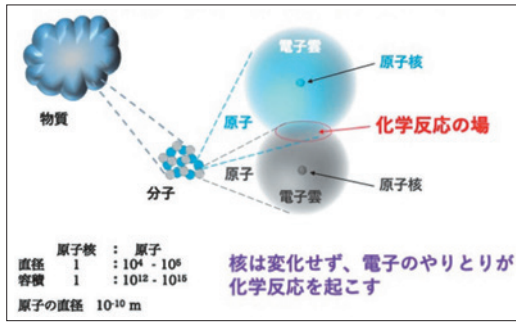


図2 原子の構造と化学反応

の1で、マイナスの電荷を帯びている。原子の中では陽子と同じ数だけ存在する。

原子の平均的な大きさは、直径がおおよそ一億分の1(10<sup>-8</sup>cm)で、原子核の直径はおおよそ一兆分の1(10<sup>-12</sup>cm)、つまり直径の比では、原子核は原子のおおよそ一万分の一である。体積と比較すると、原子核は、原子の一兆分の一と極めて小さいが、原子の大部分の質量は原子核に集約されている。周りの空間はほとんど真空状態で、そこを質量の極めて小さい電子が移動している(図2)。陽子と中性子は、さらに微小な複数のクォークと呼ばれる素粒子によって構成されている。

化学反応は、原子同士が離合集散して起こるのであるが、このとき、原子はどのようにに変化するのだろうか。ここで重要な役割を果たすのが電子である。簡単にいうと、化学反応は原子間の電子のやり取りと考えるよいだろう。原子が電子を放出したり受け取ったり、原子と原子が電子を共有したり、強く結合したり、弱く結合したり、離れたり繋がったりするのである。その時、原子核は基本的に変化せず、電子の位置関係とエ

ネルギー状態が変化するのである。

### 原発回帰政策の愚かさ

量子力学が辿り着いた原子の実態について、原子を東京ドーム2つを重ね合わせた球体と仮定すると、原子核は2塁ベースの中心に置かれたパチンコ玉に相当する。生命現象を含む地球上で起こっている全ての自然現象は化学反応と考えられるので、ドーム2個分の体積を持つもの同士の間で、反応が行っていると考えられる。

一方、原子核エネルギーは、2塁ベース上の小さなビー玉の中のエネルギーを取り出すことになるので、ドームの外側からこのビー玉に狙いをつけるのは容易ではない。これが、核エネルギー利用の困難さの一つでもある。また、放射性核分裂生成物は、地球上の物質循環系に入れないので、未来社会への負の遺産となり、ひとたび原子炉に事故が起これば、人知の及ぶところではない。量子力学的に評価すると、核エネルギーの利用は未来文明にとって底なしの負の遺産である(図3)。

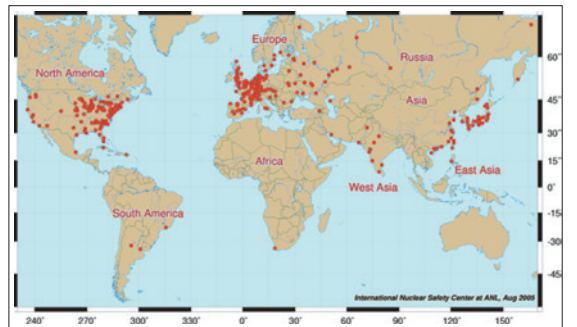


図3 世界の原子力発電所所在地 (2005年8月 International Nuclear Safety Center データベースより) 各国の核エネルギーの現状はInternational Atomic Energy Agencyのサイトを参照 <https://www.iaea.org/publications>

ドームの広いスペースの中には、化学反応という人類が最も得意とする広々とした活動の場があり、電子雲の中には、人類の科学技術の限りない可能性が隠されている。ちなみに、本年度のノーベル賞の科学3部門(生理学・医学賞・人類の進化、物理学賞・量子のもつれ、化学賞・クリックケミストリー)は、全て電子雲の世界から受賞者が生まれている。これは、電子雲が持つ豊かな可能性を裏付ける出来事であると言ってもよいだろう。既に、電子雲の中に多くの有望な研究の芽が育っている。人類の未来は、希望に満ち溢れていると考えよう。(※素粒子・物質を構成する最小の単位)

私は冷戦時代はソ連の経済、社会発展状況に引け目を感じながら中ソは平和主義だと思いたかった。ゴルバチョフや鄧小平が出てその改革路線が実を結ぶかと思いきや共産圏の崩壊に陥り、並行して社会党が没落の道を辿った。私には封建主義（王政）、資本主義（自由主義経済）、社会主義（国营・計画主義経済）



济)しか思いつかない。

社会主義は不平等、弱者救済の思想から生まれたものと教えられた。資本主義も攻勢を受けてか、反省からか修正資本主義と称して矛盾の一部の改修に努めて発展を続けている。マルクス、レーニン、毛沢東と強烈な個性・思想家が偏った教条主義をばびこら

せた。資本主義は人間の自己の欲望・利益の為の弱肉強食の自由競争心をバネに経済を發展させてきた。社会主義は（人間の理性に託し）計画的に経済を發展させるのが優位と考えた。しかし、利己心を刺激しない為に生産性に劣り、無駄が大量に発生するなど資本主義より経済的に負ける羽目になった。それが排他的教条主義と相まって民主主義や

る。残念ながら故無しと言えないのが20、21世紀の共産国の姿でもある。今ではかつての福祉国家や混合経済論も影を潜めた感がある。そんな論議を必要としない程、資本主義は勝利している。計画経済は市場経済に負けた。共産主義はイコール独裁・個人崇拜主義で、習近平氏に至っては記者会見の姿勢から見たことがない。彼の個

## 社会主義・共産主義は

## 完全に破れたり

## それでは資本主義の

## 矛盾をどう解決する

大阪 馬場 正雄

自由主義を育てる余裕はなかった。文明の遅れたロシアに社会主義革命が最初に起きたのが不幸の始まりだった。先進国型社会主義が実現せず中国・ベトナム・北朝鮮・キューバ等で独裁と結びついたのが不幸の上塗りだった。更に、保守派は共産主義は必然的に独裁や粛清と結びつく」と反共宣伝を繰り返し続け

性・人間性は全く伺い知れない。自由・民主・人権主義と相容れない。ロシア、中国、北朝鮮は、平和主義においても敵対していることは明白だ。共産主義は全ての面で資本主義より劣っていると云われても仕方ない。あれは我々の目指していた共産主義と違うと弁明しても聞く耳を持つ人は少ない。共産主義は完全

に敗れたのだ。栄光ある党名かも知れないが、党名よりも目的と中身が大事なのではないか？社会党は西欧型社会民主党と変えたが、国民の理解を得られていない。我々革新の、本来の社会主義を引き継ぐ思想とイデオロギを構築しなければいけない。

### 自民党の国家主義に対して 国民主義を唱えたら

資本主義の根本的矛盾に我々は対峙してきた。それをより強く明確にすべきだ。①村上某なる男が「金儲けが悪いことですか！」と聞き直った。資本主義の大前提が儲ける自由である。それでも「過剰な金儲けは悪いこと」と断言すべきだ。封建時代は腕力で、資本主義は雇用関係で儲けをあげた。現代はコンピュータなどで安易に広範囲に利益を上げられる。地球を壊し、環境を破壊するのは儲け第一の資本主義の結果だ。②大谷翔平選手は43億円で来季の契約をしたのを「少年に夢が」と称賛する向きがある。米国は金と力の至上主義の国ゆえに貧富の格差が巨大



大谷翔平選手

だ。そんな国柄にお付き合いすべきでない。「いかに有能で努力家であっても90%は然るべきところに寄付」と説いてはどうか。③政治家の世襲は封建制度の延長だから公平を期すべく「世襲制の制限」をすべきだ。④天皇制は民主主義と相容れない、廃止とまでは言わな

いが「大都市の真ん中に広大な皇居は交通障害だから赤坂御所に移転を」と唱えてはどうか。⑤現代の侵略に対応できる兵器以外を縮小。兵器生産と死の商人のコントロール。⑥年収1億円以上の所得者の実質課税率が下がるのは矛盾だ。課税率の強化及び大金持ちの金融資産にも課税して人間平等を。⑦現代の定年60歳、雇用延長65歳を各5年延ばし、各前期の年収を2割以上上下回らないなど、資本主義を修正する観点でなく、改革するスタンスで大胆な提案をすることが保守政治に対峙し、新たな国家観を提示する国民主義ではないか。



# オルゴール演奏、共に歌う 隣国ウクライナの避難者たち

アルブ京子

2020年4月、フランス在住20年にして、コロナに罹患。当時なんの情報もなく、相方共々不安な日々を過ごす。近所の友人が、食料買い出しを、そして、既に罹患した友人が色々励ましてくれてなんとか乗り切るが、病床熱にうなされつつ、相方の実家（ルーマニアのど田舎）に移住することを決意。こんな病気は経験がなく、外国人二人が異国で幸せになるという確信が持てなくなったから。同時に、フランスへの好奇心も持てなくなってきたということも大きい。フランス人たちも日本人同様、過去の苦しみ忘れてしまったかのよう

で。相方の国へは何度も旅をしました。まさか移住するとは全く考えたことがなかった。

たので我ながら驚きました。ただ動物的勘を信じようと。元々、彼とのお付き合いは、東欧に対する好奇心から始まっていただけだから。

2021年5月末、流石に別れ難い友たちと無理やり袂を分かち、ルーマニアへと。相方の実家は義母独り住まいなので場所は十分ある。しかも、庭が広いので以前から興味のあるパームカルチャーを実践しよう。しかし、ハーブな国際引越と、義母の熱中症騒ぎ、コロナの後遺症で、引越しの片付けは遅々として進まず、冬を迎えた。実は、日本の老母が階段から落ちて怪我をしました。引越しの最中で帰るに帰れず、日本を出て多分初めてのお正月の帰省。歳の割には

## ルーマニア移住日記

元気そうな母を置いてまたルーマニアへ。到着の翌日が、ロシアのウクライナ侵攻だった。ギリギリで家に戻れたのは本当にラッキーだった。



コンサート会場に早々と来られたウクライナの人たち

ルーマニアはウクライナの隣国なので、家族や多くの友人たちが心配して連絡をくれました。が、ど田舎なので、正直、何一つ変わらない日常。しかし、相方がウクライナ難民の支援でブカレストの難民センターで働き始めて、ブカレストでウクライナから難民が来られていると言う実感を得たということです。

うちでも難民の方を受け入れるつもりでしたが、うちまで来る難民の方は今のところ

いらつしやいません。ブカレストを経由して西ヨーロッパ、トルコ、ブルガリアの縁故を頼って移動する方達が多いようでした。ブカレストの北駅ではそういう人たちのために、無料チケットや無料のSIMカードを配布し、医療サービスのテントも常駐していました。そして、そういう



くじ引きでひな人形5体を差し上げました。

繋がりのない方たちがルーマニアに留まっています。私も相方の勤務する難民センターで、偶然来ていた別の日本人と二人で子供たちに折り紙を教えたり。そういう環境なので、難民センターの方達に色々質問したいのですが、現在、彼らは本当に忙しそう。挨拶だけですれ違うという状況です。

そんな中、広島旧友会が来てくれました。彼女は元々作曲・編曲家ですが、世界でも珍しい手回しカードオ

ルゴール演奏も手がけています。フランスではこの10年、東北震災の追悼イベントで複数のコンサートをしてきていました。そして、彼女のコンサートをブカレストのウクライナ難民の方にと急遽準備しました。音響さんはいないコンサートは初めてで、開催寸前まで、マイクが

上手いはずだったので、が始まる瞬間に解決。思いは通じる、ですね。彼女は出発前に、ウクライナの難民からのリクエストの曲も編曲してくれたのですが、曲が始まると、シーンとなって、そして、皆さんと一緒に歌ってください。胸の熱くなるひとときでした。しかし、彼らが一番感動した曲は私と彼女の故郷、広島市募集で入選した原爆の歌「爽竹桃の子守歌」だったので。チェルノブイリ事故原発を抱えるウクライナの人たちが私たちの気持ちに共感してくださった。次回には、ペリート自身の作曲した広島への曲が生まれそうです。

追記…コンサートの一部をこちらでご覧になれます。

<https://utlz.fr/jy9h>



杉井ひとし氏

## 自民党政治の象徴 「ガソリン税」

新潟県議会議員

杉井 ひとし (三条市)

物価の高騰が続いている。食料品の値上がりも大変だが、ガソリン価格の高止まりも痛い。都市部の住人と違い、公共交通が未発達な地方では、通勤にも通院にも買い物にも車を使わざるを得ない。家計を直撃するガソリン高騰に対し、政府の対応策はいかにも大企業優遇の自民党政治らしい。

そもそもガソリン価格に占

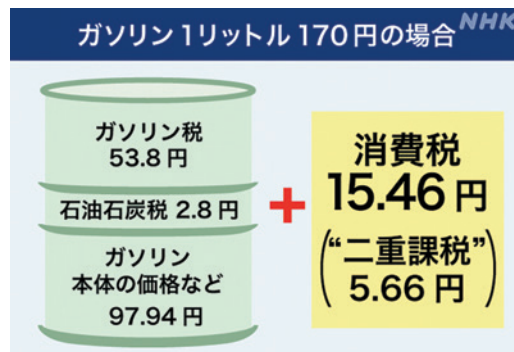
めるガソリン本体の値段は6割以下でしかない。他の4割余は税金だ。1ℓ当たり160円の場合、本体価格は89円。残る71円が税金で、内訳は揮発油税と地方揮発油税を合わせたガソリン税が53・8円、石油石炭税が2・04円、温暖化対策税が0・76円、消費税が14・4円となっている。

岸田文雄首相は「食料品やエネルギー分野を始めとする値上がりが消費者の暮らしや事業者の経営に大きな影響を与えている。危機感を持って切れ目のない対策を行っていく」と述べている。本気で対応するつもりならガソリンに対する課税を止めればいい。それが一番簡単で効果的な方法だ。ところが政府は税金には手をつけず、代わりに石油元売り各社に1ℓ当たり35円相当の補助金を交付している。ことし1月からこれまでの累計交付額は2兆円を突破、ことし末には3兆円を超える規模となっている。

### 石油元売りは

### 業績絶好調

補助金の効果もあるのだろ



うか、石油元売り各社はこぞって業績絶好調だ。ことし3月期決算は、最大手のENEOSホールディングスが売上高10兆9218億円、純利益が5371億円。出光興産は売上高6兆6887億円、純利益2795億円、コスモエネルギーホールディングスは売上高2兆4405億円、

純利益1389億円。儲かってしようがないからか、あるいは補助金に対するお礼か、石油元売り各社でつくる石油連盟は毎年、自民党に政治献金している。選挙になれば票の支援もするのだろう。これがガソリン価格高騰対策で税を引き下げるのではなく、税金は徴収し続けながら、その一部を補助金として交付する方法を選んだ理由だ。ガソリン税を下げて国民は政治献金してくれないが、大企業に恩を売れば献金も、選挙支援も得られるというわけだ。一方、経産省の官僚たちもこのやり方なら石油元売り各社と良好な関係を保ち続けられる。石油連盟を含め、石油業界全体を天下り先として確保し続けられる。

### 大企業を優遇して

### 消費者は後回し

ことし8月、ENEOSの杉森務代表取締役会長が突然、「一身上の都合」で辞任、石油連盟の会長も辞めた。7月に沖縄県那覇市の高級クラブで酒に酔った杉森氏がホステスを抱き寄せ、無理やり上半身裸にしたうえで肋

骨骨折やむち打ちなど全治2週間のけがを負わせたためだった。こんな人物をトップに据えていた石油連盟加盟各社への補助金は適正に使われているのだろうか。

案の定、財務省が予算執行調査を行った結果、「販売価格に補助金の全額が反映されていない可能性がある」ことが分かった。補助金全額がガソリン価格の抑制のために使われていると答えた事業者は半分以下にとどまり、「全額は抑制されていない」「分らない」と答えた事業者の方が多かった。小売の現場では1ℓ35円分の補助金が交付されたからといって、35円を値下げするわけではない。ガソリンの小売価格は近隣ライバル店などの価格などを見ながら設定しているためだ。補助金を「自社の赤字補てんに充てた」という事業者まであったという。

大企業の儲けや都合を優先し、消費者の生活は後回し。これはガソリン価格施策だけにとどまらない。消費者優先、国民の暮らし優先の政治を取り戻さなければならない。

## 元秘書が語る政治の世界

## 森ゆうこ前参議院議員から

## 学んだこと

新潟県三条市議会議員 竹山 よしかず



災害対策に地図を示して説明する新人の竹山議員

私は2019年の3月から、当時、自由党の森ゆうこ参議院議員の秘書にさせていただきました。伯父が元地方議員であったこともあり、政治の世界に興味を抱いていたものの、初めて足を踏み入れた世界です。2019年は参院選の年。森先生には非改選の選挙でしたが、応援する野党

系予定候補のために連日、新潟県内を移動する森先生の運転手をしました。秘書ホヤホヤの私に、森先生は車中、政治の世界のこと、地方議員として政治の世界に入られた経緯から政治家のあるべき姿など、経験に基づく貴重なお話をしてくださいました。応援候補が当選した参院選の後、週末、森先生が地元に戻られる時には運転手をし、その車中で示唆に富む話をお聞きしました。

当時、与党の国会議員が秘書に暴言を吐き暴行した事件がマスコミをにぎわしており「森先生の秘書は大変じゃないの? (笑)」と、周りの方から半ば冗談で言われたこともありました。森先生は真逆の人。東京と地元新潟を往復し、国会で党の役員として重責を担われている森先生



森ゆうこ選挙で (左から)菊田まきこ、竹山よしかず、森ゆうこ、蓮舫の各氏

が、私のような新米秘書に親身になって、ご自身の経験を熱く語ってくださいました。最高のも勉強になりました。それは人を惹きつける森先生のやさしさ、人間力というものを切実に感じさせてもらった貴重な時間でした。

森先生の生活者視点  
が質問の凄みに

地元秘書だった私は、県内で支援者への挨拶回りやポスター貼り替え・政党広報版の増設等の活動をしていました。そうした中、国会会期となり、森先生が委員会で質問される折には、議員会館で質問作りをお手伝いさせていただき、経験も与えていただきました。

した。私は先輩秘書から指示いただいた資料を準備する仕事を与えられたわけですが、その傍らで、森先生が質問の構成をされている姿を拝見していました。

森先生の頭の中には国政の重要な情報や資料が入っているわけですが、専門用語をストリートに質問に入れ込んだだけでは、国民

の皆様には伝わりにくい形になってしまいます。「いかに国民の皆様に分かりやすく表現するか」を意識されて、日常活動における有権者からの生の声・生活の実情を反映させていくことに心を砕かれました。そのことが批判だけでなく、常に提案する森先生の質問の凄みとなり、真に共感してもらう形となっていました。森先生が立つと委員会室は静まり返り、ピーンと緊張の糸が走るのが伝わります。感情に走らずしっかりと口調で論理的に追及する質問に政府側はタジタジでした。参議院の名物風景とも言えたでしょう。それが見られなくなったのは

残念です。

市議会議員として  
受け継いだもの

私は2022年4月に行われた地元・三条市議会議員選挙に挑戦させていただきました。森先生や地元新潟四区選出の菊田まきこ代議士をはじめ、多くの同級生や仲間、市民の皆様から大きなご支援・ご協力をいただき当選させていただきました。地方政治は国政と基本的構造が異なります。しかし、有権者である市民の皆様へ自分の考えを訴え、一票を投じていただいたうえで、頂戴した付託に全力で応えていくという基本的なものは変わりません。「市民の皆様は視点で」「市民の皆様は分かれやすく伝え、そして、「行政側に常に提案していく姿勢」の3点は、森先生から学んだ大きな教えとして、常に意識して活動しています。

先の参議院選挙で森先生が議席を失われたことは残念で、日本の政治にとっても損失だと思えます。国政復帰の挑戦をされるならその時は大いに協力させていただく覚悟です。

## 恭子の日記 27

## はじめの一步

コロナにかかって考えました。

丸一年、投稿をお休みをさせていただきました。ずっともがいていました。

決められた命の中で、一つの希望を成し遂げるのはどんなに大変か。計り知れない困難な壁や山を、諦めず前に突き進んで行くのは大変です。

私は今春、心臓の手術を3回し、ステントを6本入れましたが、元気に復活し、天に与えられた天の職を果たせる期間が延びたことを喜びました。けれど、気を付けていたにもかかわらず、免疫が落ちていたのか、ついにコロナにかかりました。

私はいつも命は天に預け、前向きに明るく仕事をするのが私自身だと思ってきましたが、コロナにかかって初めてわかったことがあります。

コロナは体を不調にするだけではなく、心までも蝕むのです。心は沈み、希望という言葉が消え、言いようのない無

気力の世界に落ちていききました。

人は生まれながらに荷物を背負っており、苦しみは乗り越えるたびに重荷が落ちて、軽くなっていくのだと思っていたので、心筋梗塞もコロナも与えられてありがとう、乗



「希望を運ぶ使者」 中田 恭子

筆に継ったのです。私は子供たちの未来が明るいものにつながるように、と祈りの気持ちで絵を描いてきました。

中田は仏画家という方もいますが、真つ当ではないかもしれませんが、カトリックという方もあり

ますが、洗礼を受けてはいません。

ただ、神

は人の祈り

であり、正

しい道を歩

くためのお

手本と考

えているの

で、私は全

ての神を自

らの祈りの

教科書とし

て参考にし

ています。

だからゴ

ーキヤン

のお孫さん

に、1人

だけ賞を

いただいた

ときの絵

は仏様で

した。だ

けドスト

ーリーは

聖書から

でした。

代々カ

トリック

のゴー

ギヤ

ンの家

系が仏

様の絵

を選ん

だ

という

ので、

他の審

査員の

方々が驚かれた、とききました。

選ばれた理由はゴーギャンと同じ魂を感じた、とのことでした。国も言葉も文化も違う方が選んでくださった祈りの絵を描くのは天に与えられた職と改めて思いました。その絵は長崎の造船所に飾られ、そのコピーの絵は、ラオスの中学校の体育館に飾られています。

今は戦争もあり、未来を作る子供たちの命が、奪われています。

私の祈りは天に届いているのか、と考え込んだ日々もありましたが、天の采配には必ず意味があり、人間の思いを当てはめようとしても、追いつかないことも学びました。

与えられた天命を果たしていくだけです。天命を果たしていくと、不思議と天は良い方に、良いほうに世の中を修正し、救いの綱を投げてください。さるといふことも感じています。

深い感謝を忘れずに、自分の思いより与えられた使命をこなして行こうと言いついて聞かせて筆を動かしているうちに、

コロナの落ち込みからも抜け出せました。

天を仰がなければ、また感謝を忘れてしまったなら、コロナの後遺症、深い病みの世界から、抜け出せなかったことを思うと、怖いのです。コロナの後遺症は侮るなけれ、です。

温暖化によりオゾン層に破壊が生じていると聞きます。地球を守るオゾン層の亀裂から、宇宙のウイルスが入ってきて、地球をおかしくしてしまわないように、温暖化を止める最後の手段にコロナが来たのかも、と勝手に思い巡らしています。

人は未熟で愚かですが、行き着くところまで行くと、やっとながつき、気がつくとなら、全力で改善に向かうので、全てに感謝をし、光を信じて歩き続ける事が大事だと思います。

初めに踏み出す一步はいつても重いものですが、今は天が与えた道を信じて、光を信じて歩くことがはじめの一步だと思っています。

中田 恭子

(画柳会代表・横浜市在住)

# 中学生の夏休みの宿題は 父が働く職場の見学だった。 娘が営業に同行した一日

20XX年8月11日、月曜日のことだった。女子中学生が父の勤務先に同行した。父親の働く会社をレポートする夏休みの課題で、職場見学させてもらうことが望ましいとされていた。その訪問は会社の了解を得て朝礼で伝えられていた。小学生の課題のようにも思えたが、父の勤務先は、そんなことも受け入れてくれる大らかな会社だった。

## 娘を同行し 父はいつも通り働いた

その日、父親はいつも通りに行動した。いつもの時間には家を出、同じ電車に乗って降り、同じ道をひと駅分歩いて出勤した。8時10分に事務所に到着。中学生は父の席近くの商談テーブルに座って始業時刻を待った。次々と出社す

る社員から「おはよう」と声掛けされ、恥ずかしくて小声で返すのが精いっぱいの中學生。彼女にとつての悲劇は、タイムカードが父の席近くにあり、皆が彼女の前に立ち止まることだった。



9時前の朝礼で、彼女は父から紹介された。父に促され「よろしくお願いいたします」と挨拶した。朝礼前から電話注文や問い合わせ、FAXが入る。父はそれらに対応し処理しながら、さまざまな伝票と書類に目を通し検印していた。中学生は父の前の席で、その一部始終を見学した。

10時半から顧客回りに同行。初の訪問先では部長のアポを取っていたが、駐車場にライバル会社の車が止まっていた。父は先客のようだと思いき、事務所には行かず1階のお店に寄った。ライバル会社の営業マンが2階の事務所で部長と会っているのだろうと思いき、店長や課長と商談しながら部長の時間が空くのを待った。30分待つても空く心配がないので昼食後に直すことにした。

## 父が考えていた昼食 パスタがうどんに

父はひそかに「気の利いた静かなお店

でパスタを食べよう」と考えていたが、とりあえず「お昼、何が食べたい？」と尋ねた。彼女の答えは意外にも「ザルうどんが食べたい」。「パスタ食べない？」と聞いても「ザルうどん」。うどん屋がどこにあるか分からないので、ファミレスを探し藍屋に入った。残念ながら冷やしうどんしかなかった。デザートも追加し後で家計に請求したら「使いすぎ」と妻に渋い顔をされてしまった。

午後1時に同じ会社を再訪問。店長が「部長は午前中から待っていたみたいだよ」と聞いてみるとライバル会社は社長と話をしていたように、部長は私たちのことを待ってくれていたようだ。大変申し訳ないことをしてしまった。そして部長と商談していると社長も加わってきたが、中学生には何のこともやらさっぱり分からなかったようだ。

## 学校以外の世間に触れ 娘は何を感じただろう

この日、このお店に3度目の訪問、日頃親しくしている

課長が中学生に商品を説明してくれた。勧められるまま手にした充電式インパクトドライバを操作して、ご満悦の中学生。「そんなに気に入ったのなら、お父さんをお願いして4、5台買ってもらおうか」と売り込み上手の課長。苦笑いするばかりの中学生だった。わが家には3、4万円もするこの商品は必要ないし、ましてや同じものを何台も要らなかった。

さらに車で10分ほどの他社へ。父親はそこで倉庫の在庫確認をしながら専務と商談。中学生はその間、お店で社長の奥さんや店長などと女性同士の話をしていたようだ。そして馴染みのお店を数件回って営業同行を終えた。夕方、父は地下鉄の駅で中学生を下ろし、さらに1軒を訪問して帰社した。

学校しか知らない中学生にとって世間に触れたこの日の体験は、どのように感じられただろうか。今回の訪問に際して私が働く企業の寛容な受け入れと、得意先の親切な対応に感謝をせずにいられない。父子ともども有難うございました。

## 武士政権の確立

# 鎌倉幕府の光と影(下)

東京 阿部 敏夫

鎌倉幕府というとき時代認識の正確さを、どの程度求められるのだろうか。普通の社会人にとって源頼朝から始まり実朝で終わってしまったの思い込みは案外多いのではないか。

吉川弘文館の「歴史手帳」によれば源氏三代で1192年7月から1219年1月までの18年間の政権。京都の朝廷との距離を考えれば関東武士が日本を支配することなど至難の技と理解すべきであろう。

第一、この頃の武士は文字を読めない御家人が多かったのだ。その中で貴種頼朝は將軍として鎌倉に根を下ろす。地元

関東武士は土地の領有権や武力を背景とした発言力の正当性を主張するために京都に顔の大きく頼朝を必要とし双方の利害が一致して鎌倉幕府の誕生をみた了一般には理解される。

源頼朝が53才で死亡するの

が1199年(建久十年)八年弱の初代政権の後、今NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」での鎌倉幕府執権政治がスタートする。三谷幸喜の脚本であれば期待もされ、こうなるだろうとは理解できる。

それは配役、主役の妙と共にセリフが現代的になり歴史ドラマを一層今風にして視聴者を満足させる。

それにしても頼朝役の大泉洋は適役で、このドラマの格調の相当部分を支えたといっ

ていいだろう。過去に「真田丸」での演技、風貌も注目して楽しみにしていた。

さて、このドラマの主役、北条義時のことである。1205年(元久二年)から1224年(元仁一年)まで19年の長きに亘って執権職をつとめる。初代時政から最後の守時まで16代。計130年続いた北条の政権。政権の所在地が鎌倉から何故動かなかった

のか? そうは言っても鎌倉幕府成立期には將軍と家来の職務分掌が明確になり双方の地位向上に役立つようになる。御家人の領土の安堵や戦鬪行為の命令に対する義務化などにより両者の権益が明確になったのだ。封建制度はこうして誕生する。

土着の職業の中に経済力に

内閣に似ないでもないが、強力な指導者を失った有力御家人の権力欲に引きずられた集団指導体制との見方もできる。それは現在の神奈川県を中心とした一部の有力御家人に限られたことで西国や奥羽が一体となるには、なお時間が必要であった。

それでも奥州の藤原氏に身を寄せた義経を

ともども殺害して全国制覇するのだが。

義経は頼朝の弟だ。執権時政は頼家を修善寺で殺す。実朝は公暁に殺されるのだが背後に義時の影がちらつくとの説は結構、説得力をもつ。この時代、日本史上における利害、権力での暗殺、強行が最も多かったと言えるのではないか。

大河ドラマでは主演義時の苦勞の末と思われる行動や決断も執権職を北条一族で独占し維持するための手段であり独裁制の強化であったとする



二代目執権北条義時

ならば、人間は常に、その危険性を有していると思わぬでもない。執権政治の充実は義時の時代だけでは足りず、その子泰時の政治を待つのだが。高校は51カ条を得て武家の法典との権威を得る。

鎌倉時代の文化と鎌倉地方の文化は当然ながら異なる。地域性を考えると当然、実朝の「金槐和歌集」を挙げねばなるまい。それまで京都の公家の文化と思われた和歌が藤原定家や西行の作品を得て後鳥羽上皇が編集する「新古今和歌集」が完成する。競い合って歌を詠んだ京と違い、文字を充分に使いこなせなかった東国の武士の中で実朝の感性は鎌倉の地域を映して素晴らしい。

法然、親鸞、栄西、道元、日蓮は延暦寺で天台宗を修行したのち、新仏教としてのきびしい修行が武士の心を射る。建長寺、円覚寺などの禅宗の寺院が鎌倉を代表する寺院であるの言うまでもない。続くかと思われた北条の執権政治も1333年(元弘三年)その幕を閉じる。

## 水商売

野口 文字

辞書で「水商売」を引くと「客の人氣によって成り立つ収入の不確かな商売の俗称。バー、キャバレーの類」とある。酒と煙草が様になっている女優と言えば、淡路恵子か太地喜和子を思い浮かべる。実生活でも男運が悪かった。酒を飲みながら煙草をプカプカするホステス姿をもう一度見てみたい。

NHKBSPremiumで現在放映中の「今度生まれたら」が面白い。私と同年代の芸達者たちが揃っている。松坂慶子、風間杜夫、平田満の取り合わせは、「蒲田行進曲」以来で懐かしい。内館牧子原作だ。老境男女の様々な人間模様が繰り広げられて、見応えのあるドラマに仕上がっている。

話の前置きが長いのを許して欲しい。実は私の秘かな夢は「生まれ変わったら水商売



をしてみたい」なのだ。カウンター客は多くて5〜6人、2人席が1卓だけという小さなスナックだ。お酒1杯で真っ赤になる私だが、店を構えるためなら鍛えておきたい。喫煙者に厳しい昨今だが常識の範囲で大目にみよう。

午後5時開店だ。ママである私は化粧をやや濃い目に身支度をする。剥げると貧乏くさいのでマニキュアもきちんと塗る。料理は苦手なので乾き物中心だ。料理上手の友人たちに、きんぴらや切り干し大根などの一品ものを差し入れてもらう。ベテラン女子の腕の見せ所だ。高齢者歓迎の店なので、話を熱心に聞いてあげられる。「手相を見てあげる」などと言って、たまに殿方の手を握れば大喜びしてくれる(?)かもしれない。

結構真面目に生きてきたので、生まれ変わったらグレートやる。今からでも遅くはない。現実重視の男性は「そんなけつたいな商売、採算合うわけおまへん」と言うだろう。

## 志葉玲氏のウクライナ取材本出版されました



戦場ジャーナリスト、志葉玲氏によるウクライナ取材が『ウクライナ危機から問う日本と世界の平和 戦場ジャーナリストの提言』として、あけび書房から先月出版されました。

志葉さんにはCrossing 70号と今号の表紙写真を提供いただき、現地の状況も「ウクライナ報告」として掲載しました。前号の表紙、母親を亡くした少年が墓地の前でたたずむ姿には、悲しみの深さがにじみ出しており、彼の前途に幸あれと祈らずにおられませんでした。Crossing 読者から多くの反響をいただいています。志葉氏の思いが溢れる一冊、ぜひご一読ください。

## 余録

自画自賛するが、今号も皆さんのお陰で多彩な方々に執筆していただいた。お会いしたこともない前法政大総長、田中氏——国会前のスピーチを見かけたので制止の合間に撮ったのをご本人の了解を得て掲載。野党がいくらわめいてもアメリカには声が届かない——そのような声を届けようと活動しているのが新外交のNDだ。猿田佐世代表は欧

## 編集後記

ライフ・クロッシングの誌名が英語筆記体なので正確に読めない、名前にはどんな意味があるのかの声に、改めて表紙欄外で紹介しました。▼リアルタイムな「今」があげられた今号。立ち会っているのは時代の転換点。世界の素顔があらわになり、あらゆるレベルの問題が噴出して混乱とカオスに覆われたこの地球号、いずこへ向かうのか。▼異彩を放つのは伊藤俊

州からの帰路、機中で原稿書き。締切に間に合わせてくれた。日本とは関係の薄いルーマニアに移住されたアルブ京子さんからは現地からの報告。一度まとまった人生観・世界観をお願いしたものだ。裏表紙には前参議院議員の森ゆうこさんに書いてもらった。目下、英気を養っておられ、捲土重来を期す日はいつのことか。投稿も大歓迎です。編集部にもメールでお問い合わせ下さい。

洋氏の「量子力学と文明」。宇宙や命の活動をマイクロでとらえ、混沌の世を異なる視線から解き明かす水先案内。伊藤氏とのメールのやりとりで、いばらず謙虚で、透徹した目線や知性に裏打ちされた人間のやさしさを感ずりました。「放射性核分裂生成物は、地球上の物質循環系に入れないので、ひとたび原子炉に事故が起これば、人知の及ぶところでない。核エネルギーの利用は未来文明にとって底なしの負の遺産である」と。科学に弱い私の頭の霧がふつとびました。

# 凋落する日本を憂う

新潟 前参議院議員 森 ゆうこ



異常な猛暑の中で闘い敗れた夏の参院選から季節は移ろい、朝夕、庭で薔薇たちの世話をしているとき、賑やかな鳴き声が聴こえてきます。寝ぐらにしている瓢湖（ラムサー）ル条約登録湿地）や福島潟と、落穂の豊富な田んぼの間を毎日行き来する白鳥たちの通り道になっていっているのか、次々に小さな編隊が美しい秋の空を飛んでいきます。シベリアやオホーツク海沿岸から今年も越冬のために飛来したという彼らに、ふと、「戦争を終わらせるにはどうしたらいい？」と呟いていました。

世界の秩序がもはや崩壊への一途を辿っているのではないかとさえ思える今こそ、日本は自律的に平和の秩序再構築への役割を果たす努力をすべきなのではないでしょうか。そのためには、防衛力の強化はもちろん重要ですが、それに偏るのではなく、ただお金をばら撒くだけではない真剣な外交に力を注ぐことが政治に期待されています。日中国交正常化50周年を期して、地元紙で、一命を賭して日中国交正常化を成し遂げた田中角栄元総理が再びクローズアップされました。先人達が残してくれた遺産を私たちはただ食い潰してきただけではないのか、と情けない気持ちになりつつその足跡を辿りました。

今、94歳の実父をサポートしながら、久しぶりに落ち着いた生活をしています。改めて地域社会の少子・高齢化を実感し、暗澹たる気持ちになっ

国会にいる間、私は不思議で仕方がありませんでした。このままでは日本の存続さえ危ういということが繰り返し客観的な数字を根拠にしつつ議論されてきたにも関わらず、劇的な子育て支援の強化、子育て世代の所得向上、選択的夫婦別姓制度、性をはじめとする人々の多様性を認める法整備などに頑なに反対する勢力が、自民党の中で大きな力を持つていたことでした。

衝撃的な安倍元総理の銃撃事件から4ヶ月余り、「旧統一協会」と自民党の関係が明らかになるにつれて、漸く全てが腑に落ちました。

「旧統一協会」の教義と安倍元総理らの強い主張は重なりを見せ、選挙の際には政策協定が数十人の議員達と結ばれていたことも明らかになります。「我



野党各党、連合新潟、市民連合が手を取り合い、自民党候補と最後までデッドヒートを繰り広げた夏の参議院選挙。森ゆうこの姿を再び国会で見れる日はいつ来るのか！

が国を守り抜く」と保守本流を謳ってきた政治家たちが、実は韓国に日本の資金を貢がせることを主張するカルト宗教と昵懇だったとは、喜劇であり悲劇であります。

岸田総理が安倍元総理の国葬を決断・実行したことは大きな失敗でした。とどまることを知らない円安は食料や資材・原材料を輸入に頼る我が国の物価をさらに押し上げ、30年上がらない賃金で貧困化する現役世代と高齢化によって増える年金生活者をもっと疲弊させるでしょう。出口戦略のないまま10年近く続けたきた「異常な金融緩和・アベノミクス」の負の遺産から国民生活・経済を救うには、アベノミクスの総括が絶対に必要であり、その失敗を、そして森友問題だけでも118回公式に認定され国会審

議を無力化した「安倍元総理の虚偽答弁」を、国葬で誤魔化してはいけなかったのです。

この30年、主要先進諸国の中で日本だけが賃金が伸びず、国民の豊かさを示す指標といわれている1人あたりGDPは下落し続け、近隣アジア諸国にも追い抜かれてしまいました。予算委員会でも何度となく取り上げ、夏の参院選では街頭演説で初めてパネルを使いながら、このままでは国が衰退していくことを繰り返して訴えました。

今、「安い国日本」「海外へ出稼ぎに行く日本の若者」のニュースを見て、森ゆうこの言っていたことが加速度的に進んでいると漸く危機感を共有してくれている人もいらっしゃるでしょう。

現状に不満を持ち、未来に不安を抱く若者達を中心にSNSで情報を得た人々が、日の丸の揺れる長洲剛氏のコンサートや新興政党の街頭演説で熱狂し、涙を流す動画がYouTubeに溢れ、震撼させられます。政治への信頼を取り戻し、日本の凋落を食い止めなければなりません。

【プロフィール】 昭和31年生まれ66歳。新潟市出身。新潟大学人文(旧法文)学部卒。元横越町議。前参議院議員(当選3回)3期18年。

【過去の役職】 文部科学副大臣 参議院北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会委員長 参議院内閣委員会、厚生労働委員会等で理事を歴任 立憲民主党 副代表・参議院幹事長

著書にベストセラー「検察の裏」、「日本を破壊する5つの裏」 趣味/ガーデニング 和洋折衷のローズガーデンを目指している 得意料理/トンカツ 孫たちは「トンカツのばあば」と呼ぶ